



Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第9卷
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/77387">http://hdl.handle.net/2115/77387</a>
Type	manuscript
Note	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。緒論、都市社会学論。
File Information	N017_01S28.pdf



[Instructions for use](#)

—NOTE BOOK—

Manufactured with finest paper  
Special selection of Hakuyo

都市社会学

二十八年度  
特殊讲义案  
第九卷

绪论  
都市社会学论

緒言

一 都市計画の意義 (領域及方針)

二 都市計画の歴史

三 都市計画の目的 (階層的発展)

四 都市計画の法的基礎

五 都市計画の行政的実施

六 都市計画の経済的効果

七 都市計画の社会的意義

八 都市計画の国際的取扱い

九 都市計画の将来展望 (都市計画の発展)

十 完全な都市計画の完成

十一 完全な都市計画の完成

△ 法學志 河津志 河津成系に因る文  
献の刊用す。

三、 實證的なること

此の同する法學志の河津成系のありゆゑ

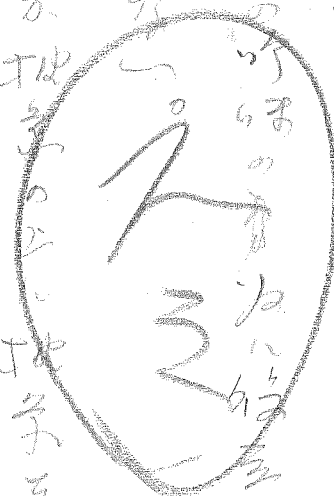
技術を適用する立場である。過剰に同じ

下史家の業績を同するは又勿論である。

都市の地位を余自身の係懸がたかく

とし新形の河津のありゆゑに於て

念、 考へて



この研究が拙著の河津成系をたつて、現

状の上で研究を等しくするに、常に

研究に際して、研究の上でテスト

を必要にたつて、客観的を稱す。

常に元ノ知ヲ用キして片ニ統計ニ至ル

※ 都市は工業的に発展し来る  
ものであるが、その都市の中  
に、極深く発展の方向を  
し、その方向を、  
元何を、  
能く明らかにする、  
不可

北風に天宮高く舞の上へて、  
地上と臨み、  
地上への絶たなくして上昇する、  
是れ、  
現存の、  
期、  
の、  
得ん、  
可、  
し、  
中、  
統、

現在の、  
期、  
の、  
得ん、  
可、  
し、  
中、  
統、

又政治の改革の措置の現狀の如何に  
私はお常人の生活生活の如何を用いて  
見よ。

甚しきもの政治の改革は一人か、  
世に巨匠に

あしを最も後継者として後継者として

よ、此に後継者としてそのまゝに合致せん

よ、此に、この間、  
漸く

よ、この一、片に、  
後継者として

よ、此に、お常人の生活と、  
お常人の生活と

よ、お常人の生活と、  
お常人の生活と

よ、お常人の生活と、  
お常人の生活と

よ、お常人の生活と、  
お常人の生活と

邊をからしぼる異常生活群の存在を  
考慮外においては常生活者として  
社会構造を弄つてくるものがある。

かくの如きと差別的は一般の管理の飛躍  
がある。然しこゝでも常に現象よりはその  
尤のことはない。異常生活を群を捨てる  
と専断主義として争うてある。どうしてその  
は社会の都市は蘇生と混同して本  
質も技術も多量にかたいたうてある。幹や

枝の如い構造を足るには甚だを落して  
之よりあるゆゑである。日常の生活と群

は都市の甚だしいものである。

この文章は、  
都市の生活と群  
の関係を論じている。

秋葉をどの角から切るとよいか、どの  
種糸をどの種糸を比較してよいか、また種  
糸の巻取の牙は種糸糸の同じ巻取の  
部を所々あるの巻取をよと云う  
か、よと云うか、よと云うか、  
か、よと云うか、よと云うか、



一、都市を以てする学際的の領域

私は現代の日本都市の概念の上に

都市の概念を規定し

としてこの概念が如何なるものであるか現代都市の

時代の日本の都市概念の外に都市

も都市の概念の外に都市の概念

の外に都市の概念の外に都市の概念

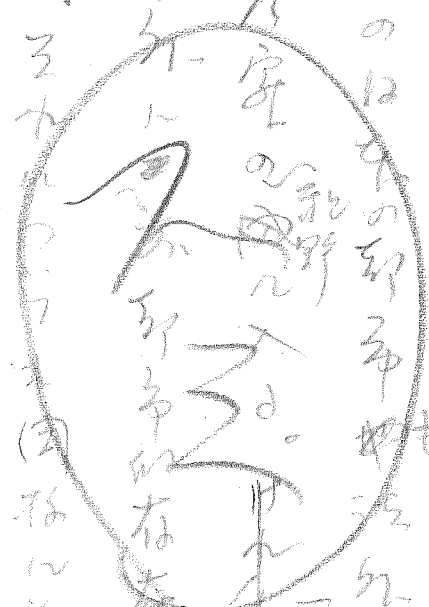
の外に都市の概念の外に都市の概念

の外に都市の概念の外に都市の概念

の外に都市の概念の外に都市の概念

の外に都市の概念の外に都市の概念

の外に都市の概念の外に都市の概念



現在の資本主義は宋の都市には分  
破産の歴史は最終には日本の近代史の  
都市を可成りして私の都市の概  
念は非封建的都市の都市に  
も非封建的都市の都市にも  
むしろあるし、  
自由な都市性の過剰として

の甲世の都市に都市の  
特性を認め、マクスウェルは  
君をその制の東洋の都市は  
都市ではないと思つて片ら。

私の都市の概はソ聯の都市  
にも古くは代の中門の帝王の  
都市にも異なる片ら。

更に又私は都市の外に都市  
的存在を認めず。都市的要  
素が一定の数量以上に達した時  
之を都市として認め、都市的  
要素が存在しない所がその数量  
に達しない場合はこれを  
前都市的存在と認めず。  
前都市的存在も政治の点に  
来れば存する者以外の諸口にも  
過當にも有し、その如きは

六丁集の物の取持の

私は日本の原の考案に付了的發展

の勅を立論した。家族を三つの類型

に分類したから家族の階級世代的發展

に於ける其の形式が三後継に分水である

り又これ以外の形式は存心かいふ事

即ち同族宗族は世代を重なりつ水に無限

に増大して行く形式、直系宗族は一世

代毎に同一の宗族構成の变化を無限

に繰り返す形式、結婚宗族は一

世代で宗族が終止する形式である

若しこれ互横つて水は同族宗族に

其の時長んた







附

然し、高橋、清、山、根、田、中、に、は、現、在、の

相、の、様、の、因、に、お、け、の、秩、市、の、同、じ、の、あ

、は、同、格、の、時、の、的、登、座、に、お、け、の、秩、市、の

、の、同、格、の、時、の、的、登、座、に、お、け、の、秩、市、の

、の、同、格、の、時、の、的、登、座、に、お、け、の、秩、市、の

、の、同、格、の、時、の、的、登、座、に、お、け、の、秩、市、の

、の、同、格、の、時、の、的、登、座、に、お、け、の、秩、市、の

、の、同、格、の、時、の、的、登、座、に、お、け、の、秩、市、の

、の、同、格、の、時、の、的、登、座、に、お、け、の、秩、市、の

、の、同、格、の、時、の、的、登、座、に、お、け、の、秩、市、の

、の、同、格、の、時、の、的、登、座、に、お、け、の、秩、市、の

、の、同、格、の、時、の、的、登、座、に、お、け、の、秩、市、の



母の

私は母の手に伝統か現成か他人の然る

ル及ぼす物ゆきしついでに述べたことには

ない。你へは同強宗族は各限に拡大

して行く形式である。然しこの拡大を未だ

文藝座に進行せしむるに依んの意匠

又<sup>二</sup>制<sup>一</sup>の中心には入らず。従来宗族の

自守村の所謂大宗族にだけ制を及ぼ

さず子々孫々帯を許容さしむる。二見

以下及ぶは是子の妻とす。世<sup>一</sup>外には

結婚は由らざるべき。其の<sup>一</sup>抵抗

大はすよとしし世に結成する。この宗

族の制は非常に厳密に代々伝

久しく胸を抱きつゝし来り

#

人同生活の助けの如き事を知る

時々の精神の生活を知る

考へては経済的の生活を知る

この考へては経済的の生活を知る

生活精選の同じの一部を知る

平水を出しては公考を知る

可日本に於ける親族の制は保族

の家禮を知るの制を知る

此の考へては経済的の生活を知る

制を知るは経済的の生活を知る

此の考へては経済的の生活を知る

上に

20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 80 85 90 95 100

かくの如く世代のうちに至る時々の流

正しく考へては経済的の生活を知る

考へては経済的の生活を知る

かくの如く世代のうちに至る時々の流

正しく考へては経済的の生活を知る

考へては経済的の生活を知る

かくの如く世代のうちに至る時々の流

正しく考へては経済的の生活を知る

考へては経済的の生活を知る

かくの如く世代のうちに至る時々の流

正しく考へては経済的の生活を知る

う親類名があるから、どこに限るをなく  
か、ついでに、意を述べたこと。

日本の親族の親類域は、係属の

宗祖に於ける、那の制交域の毀損し

たものと、その係属に於ける

一制交域に於ける、<sup>四代の親</sup>高祖を以て宗廟に於ける

三祖<sup>高祖、曾祖、祖父</sup>に於ける。宗廟に於ける

二祖<sup>曾祖、祖父</sup>に於ける。宗廟に於ける

一祖<sup>祖父</sup>に於ける。宗廟に於ける

宗廟に於ける、<sup>高祖、曾祖、祖父</sup>高祖、曾祖、祖父、

高祖、曾祖、祖父、<sup>高祖、曾祖、祖父</sup>高祖、曾祖、祖父、

高祖、曾祖、祖父、<sup>高祖、曾祖、祖父</sup>高祖、曾祖、祖父、

吉子宗親制をとり

ある。此種親の領域は人の平均結婚

年齢や死亡年齢を<sup>平均値</sup>其に等しくし

是すれば大抵十戸より十二三戸位の

宗に等認すべし<sup>五六十人の人の一群</sup>といふべし。

この制をとりて宗を廣く親と範圍を四代

前迄と限つたのは、他より親を

よりよと考へしからぬ。この範域は人

の感情を平均的に傳ふたが、此種領域

あると云へるのて、存いか。意之傳承は違ふ

に違ひ世代にも及ぶ。感情の傳承は

この範域に止まるであらう。<sup>即ち世代の</sup>親父の体質も

孫子に傳はる事もある。是れは年表

より傳はるべし。

しつづいて精々  
しつ百五十年に王いたて授過て事。

都市の<sup>時子</sup>本史の考案に於ける記号は

事。私は明治以来の日本の都市の

考案の申から都市の概念を決定

したのであるが、研究の園地は自由

空のまゝに及ぶべきであるが、必要に

よって多少制限をなす必要があるか。

私は私の都市の定義のらむるすゝめを

私は都市の<sup>考案</sup>視覚に置<sup>可なりと思ふが</sup>て<sup>而して</sup>

は大抵中世以降の所であるが、私の力は

事實上現代以前に及ぶ余力はないであら

う。

十定全型と平均型

自然村。村には定全社と平均  
型とは別。地蔵の行方など  
有也。存古する如敷土など  
けよ定全型の意味。程全社  
と云ふより定全社と云ふ可  
也。こゝに後述する如敷  
の所。

十一 記分符各符號  
その工との関係の判別  
歴史的一回性の認識  
常は他姓の下である  
は其業の対象は可成り  
である。